

大阪大学臨床医工学融合研究教育センター(MEI)センター  
グローバルCOE「医・工・情報学の融合による予測医学基盤創成」  
—*in silico medicine* を指向したオーブンプラットフォームの構築—

グローバルCOEプログラム

■ 海外国際会議渡航報告書 ■

- 報告者 ■ 吉元 俊輔
- 所属 ■ 基礎工学研究科 機能創成専攻 生体工学領域
- 学年 ■ 博士後期課程 2年
- 渡航目的 ■ 口頭発表および医・工・情報学融合による予測医学基盤創成についての情報収集を行う。
- 国際会議名 ■ 33rd Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society
- 渡航先 ■ Boston, USA
- 渡航期間 ■ 2011年8月29日～9月5日
- 論文タイトル ■  
Development of a Spatially Transparent Electrotactile Display  
and Its Performance in Grip Force Control

■ 報告 ■

8月30日から9月3日まで、ボストンにてIEEE EMBC 2011が開催された。IEEE EMBCは国際生体医工学会が主催する、生体医工学の分野における世界的な権威のある国際会議である。会場となったBoston Marriott Copley Place HotelおよびWestin Hotelは街の中心地に近くに位置し、アクセスも良いため連日多くの参加者が会場を賑わせた。

報告者は本学会への参加は今回が初めてであった。まず驚いたのが対象とする分野の広さと発表の件数である。一度に10以上のセッションが並列して進行しているため、聴講する

発表を選別するのに苦労するほどであった。また、ポスター発表の会場では、様々な分野の研究者が活発に議論を交わす様子が印象的であった。日本人の参加者も多く、生体医工学の分野における日本の活躍を伺い知ることができた。

また、学生向けのセッションも多く企画されており、基礎能力を養うという点でも有意義な会である。Student Paper Award Competition では予め論文の審査を通過した学生が口頭発表を行い、勝敗を競う。厳しい選考を勝ち残っただけあって、研究内容はもちろんのこと、発表の簡潔さにも学ぶものが多かった。Tutorial: Technical Writing では、科学技術論文の書き方に関する戦略を3名の先生方に分かりやすく解説していただいた。

報告者は手術支援を対象とした力触覚提示に関するセッション「Haptics in Robotic Surgery」にて口頭発表による成果報告を行った。本発表は、道具の把持を邪魔することなく把持部に触覚提示を可能な触覚提示装置の開発と、その利用による把持力制御における性能評価の結果であり、生体医工学の分野における貢献が期待される。12分の発表の後、3分間の質疑応答では4件の質疑をいただいた。国際会議においては初めての発表内容であったため研究を知っていただくという点で有意義であったと考えられる。また、セッションの終了後には興味を持っていただいた数名の研究者と意見交換を行うことができたため、今後の研究活動に繋がりたいと思う。

本国際会議は2012年にサンディエゴ、2013年に大阪で開催される予定である。大阪における開催の際には、運営の補助を行うこととなるが、今年度の参加経験を生かして運営の補助に努めたいと思う。

最後になりましたが、今回の海外渡航を助成して頂いたMEIセンターgCOE、ご指導して頂いている大城理先生、井村誠孝先生、黒田嘉宏先生に深く感謝いたします。

